

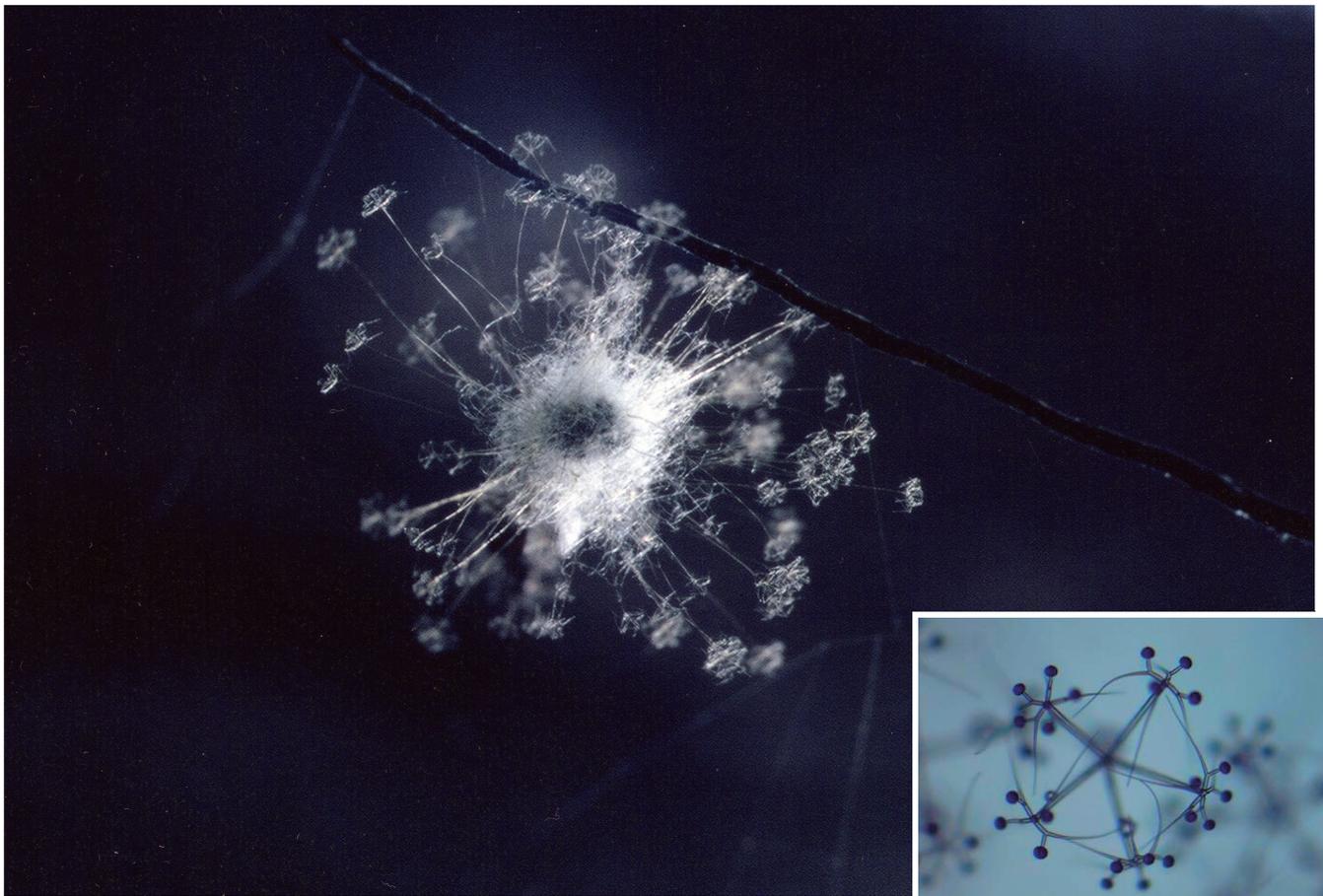
自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 12, No. 1

神奈川県立生命の星・地球博物館

Mar., 2006



スポロディニエラ・

ウンベラータ

Sporodiniella umbellata Boedijn

(接合菌綱ケカビ目ケカビ科)

2005年8月6日 横浜市青葉区

中山 勉 氏 撮影

でがわようすけ
出川洋介 (学芸員)

ケサランパサランという謎の生き物(?)が話題になることがあります。上の写真もその正体の一つではないでしょうか。この写真は、空中のクモの巣にかかった小さな虫から、ある珍しいカビが生えている様子です(直径は1.5cmほど)。中央の繭玉のように見えるところに虫が包まれており、そこから放射状に菌糸が発しています。個々の菌糸は先端で細かく傘の骨のような散形分枝をし(種小名ウンベラータは傘の意)、さらに小枝の先端が散形分枝を繰り返して頂部付近に孢子

を作ります(右下写真)。一般に、ケカビの仲間は、土の中に普通に生息しており、動植物の遺体を掃除する分解者の働きをしています。糖分の豊富な果物や花、糞などに発生すると急速に成長して大きなコロニーを作ります。しかし、スポロディニエラは、ケカビとしては変わり者で、昆虫や小型の節足動物の体からのみ発生します。線香花火の火花のような、美しくもはかない貴重な瞬間をフィルムに収められた撮影者の中山勉氏に敬意を表します。(8ページに関連記事)